

## 「感動のスタジアム観戦」

この春、WBC の優勝より、サッカー観戦に大感動した高野です。

元来、スポーツ観戦ってのは、エアコンの効いた部屋でビール片手にするもんだと思ってました。トイレは気軽に行けるし、リプレイだって流れるんですから。

ところが一生に 2 度と見られないような試合をナマで見ると考え方も変わりますね。

3 月 19 日のアビスパ福岡対湘南ベルマーレ戦がまさにそれでした。

その日、アビスパはホームなのに、ずっと押さればなし。笛に助けられたシーンも多々ありました。ベルマーレに先制を許し、素人目に見ても不利です。「引き分けにでもなってくれたら」なんて思いながら 0 対 1 でロスタイムへ。

そこから奇跡が始まったのです。ロスタイムは 9 分。そのロスタイム 6 分に同点ゴールが決まり、「引き分けでも上出来」と思ったロスタイム 9 分、逆転ゴールが決まったのです。

その瞬間、全ての観客が飛び上がりました。スタジアムが一つになった瞬間はホント鳥肌もんです。

試合後のスタジアムは誰も帰らず選手が挨拶に来るのを待ってます。私と息子も最前列で待っていました。選手たちは観客席まで 4~5 メーターのところを手を振りながら行進してきます。

その時です。一人の選手がスタンドまで駆け寄ってきたのです。

彼は肩にかけていたフェイスタオルをキレイに折りたたんで息子に差し出したのです。「また応援に来てね」って。

1 万人もいる中で、たった一人だけそのような対応をもらった息子は呆然としています。

盛り上がったのは横にいたおばちゃん達。キャーキャー言いながら、解説までしてくれます。

「あの子はね、東福岡の時に全国制覇してね、鹿島に入ったのよ。今年からアビスパに移籍してきた小田逸希っていう選手よ」

息子は有難うとも言えずボーっとしていました。それは家に帰っても同じでした。嬉しいというより、信じられないという気持ちが強かったのでしょうかね。

僕はこの日のことを、ずっと覚えていて欲しいなって思いました。

最後の最後まで諦めずに戦い抜いたこと。ラストプレイで逆転ゴールをもぎ取ったこと。スタジアムの一体感。仲間と分かち合う喜び。1 万人の観客の中で、ただ一人、選手から直接タオルをもらったこと。

そして息子が大人になった時、どんな職業についていようと、自分が感動を与える人間になって欲しいと願う私でした